

授業概要

現代社会において、メディアの存在は私たちをとりまく文化の組成に大きく影響している。そのような状況のなかで、メディアの役割を理解することは、私たちが生活している社会環境のあり様や、私たちが日常的に実践しているコミュニケーションの意味をいま一度考えなおしてみるためにも重要な意義をもつ。とくに、普段、私たちがあたりまえのように接しているメディアがときに人々を統制したり、抑圧したりするという点については、留意が必要である。この授業では、身近なトピック（写真、映画、ドラマ、テレビ番組、ゲームなど）の分析をつうじて、メディアに関連する概念やキーワードを習得するとともに、それらの知識を応用しながら私たちをとりまく文化とメディアの関係性を捉えなおすための講義を行なう。

授業計画

第1回	授業ガイダンス——本講義をつうじて学んでほしいこと
第2回	メディアとコミュニケーション①——メディアと文化的コード
第3回	メディアとコミュニケーション②——メディアにおける言語の意味
第4回	メディアとコミュニケーション③——メタ・コミュニケーションとしてのお笑い
第5回	様々なメディア①——写真
第6回	様々なメディア②——テレビ
第7回	様々なメディア③——ゲーム
第8回	メディアと現代文化①——おたく文化とデータベース消費
第9回	メディアと現代文化②——メディアが形成するトライブカルチャー
第10回	メディアと現代文化③——ソーシャルメディアが生成する恋愛文化
第11回	メディア表象①——メディアとステレオタイプ
第12回	メディア表象②——メディアにおけるジェンダー表象
第13回	メディア表象③——メディアにおける障害者表象
第14回	メディアの政治性①——メディアへのアクセシビリティをめぐる不平等
第15回	メディアの政治性②——メディアにおける「共生」言説
第16回	期末試験（記述形式）

到達目標

メディアが様々な文化の構築に関与していることを理解する。授業をつうじてメディア文化を読み解くための基本的な概念や理論を習得し、それを日常的な経験に結びつけて考察できるようにすることを目指す。ディスカッションやコメントシートへの記述をつうじて、他者の意見から気づきを得たり、自らの考えをまとめたりする力を身につける。

履修上の注意

授業内でおこなうグループディスカッションへの積極的な参加を期待する。また、毎回の授業内でコメントシートの記述・提出を求める。正当な理由のない遅刻者については、その回のコメントシートを評価の対象外とする。

予習復習

次の授業で使用する資料等が配布された場合には、事前に読んでおくこと。また、各授業回をつうじて学んだ理論や概念についてはしっかりと理解ができるように、必要に応じて各自で復習をしておくこと。なお、授業内容に関する質問は随時受けつける。

評価方法

コメントシートの内容・グループディスカッションへの参加度・授業内課題（40%）、期末試験（60%）

テキスト

池田理知子（2016）『日常から考えるコミュニケーション学：メディアを通して学ぶ』ナカニシヤ出版。
その他、必要な資料は授業内に配布する。